

第 3 期仙台市地域保健福祉計画策定過程におけるワークショップ開催（案）

1 目的

地域社会が抱える課題が複雑化する中で、行政が提供するサービスとともに、身近な生活圏域を中心とした住民相互の支え合いの活動やネットワークの重要性が高まってきている。

また、本市における第 1 期及び第 2 期計画推進を通じたこれまでの取り組みや東日本大震災からの復興へ向けた市民力の高まりとともに、地域課題に対する住民主体の取り組みが様々な形で行われている。

以上のことから、これまで地域社会において展開されているネットワークや活動者から、現状や課題、取り組みの工夫等についてワークショップにより把握し、第 3 期仙台市地域保健福祉計画へ反映させることを目的に実施する。

2 主催

仙台市、仙台市地域福祉専門分科会、仙台市社会福祉協議会の三者による共催

3 実施期間

平成 27 年 6 月～ 8 月（予定）

4 ワークショップの視点及び内容

（1）参加対象

地域福祉活動における既存のネットワークの参加者、または活動を行う団体等

（2）対象選定について

すでに取り組まが行われている、または組織化が行われているネットワークを対象とし、活動テーマ等を勘案し、選定する。

対象を選定する上での視点について

① 地域住民が主体となり、福祉活動を推進してきた団体の活動推進者。

（住民相互の支えあい活動推進の課題、工夫の把握）

例：小地域福祉ネットワーク活動推進検討会の参加メンバー

② 東日本大震災からの復興に向け、地域の支援体制づくりを行っているネットワーク組織の活動者。

（復興過程における地域の支えあい体制づくりにおける課題、工夫の把握）

例：復興公営住宅支援者会議の代表者等

- ③ 高齢社会における住み慣れた地域の安心した暮らしを支える仕組みづくりに取り組むネットワークの活動者。

(高齢社会における地域の支援体制づくりにおける課題、工夫の把握)

例：民児協地域福祉特別委員会のモデル事業実施地域

- ④ 福祉課題解決の担い手として、また将来の社会の担い手として期待される大学生またはその支援に取り組んでいる活動者を対象とする。

(地域課題への学生参加の課題と工夫の把握)

例：ボランティア市民活動ネットワーク会議の参加大学

(3) ワークショップの内容

- ・地域における活動している中での課題、工夫などを共有・抽出する。
- ・計画の主要論点を軸に、進展するために必要な取り組みについて把握する。

5 開催回数

各開催の視点ごと1回の開催とし、当日の所要時間は約2時間程度とする。